

# 2019年3月期決算説明会

2019年6月14日



三光産業株式会社

(証券コード：7922)

会社概要	.....	p.2
2019年3月期 決算概況	.....	p.6
今後の事業展開	.....	p.12
中期経営計画	.....	p.16

# 会社概要

工業用以外の生活関連

シール・ラベル関連製品



スマホ・車載・産業・医療・教育関連

パネル関連製品

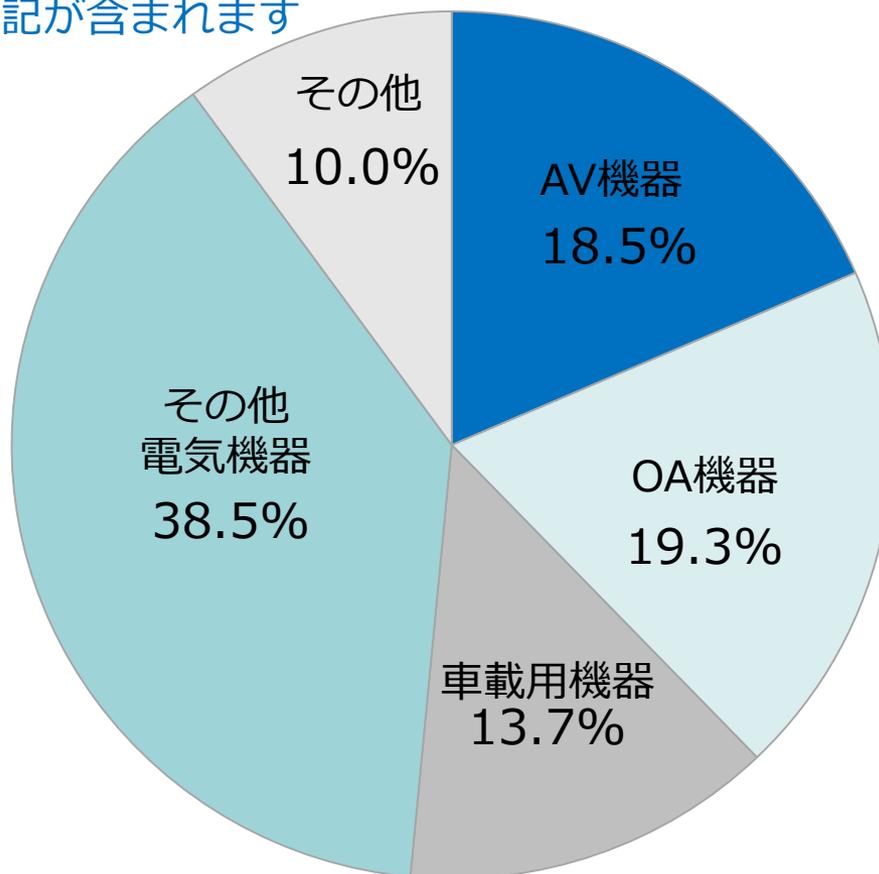


新たな事業への開発～営業展開の加速

## 業種別売上構成（連結）

【その他電機機器】には下記が含まれます

- ・産業関連 . . . 7.3%
- ・スマートフォン . . . 6.4%
- ・医療関連 . . . 1.4%



## 国内拠点



## 海外拠点



# 2019年3月期 決算概況



# 決算概要

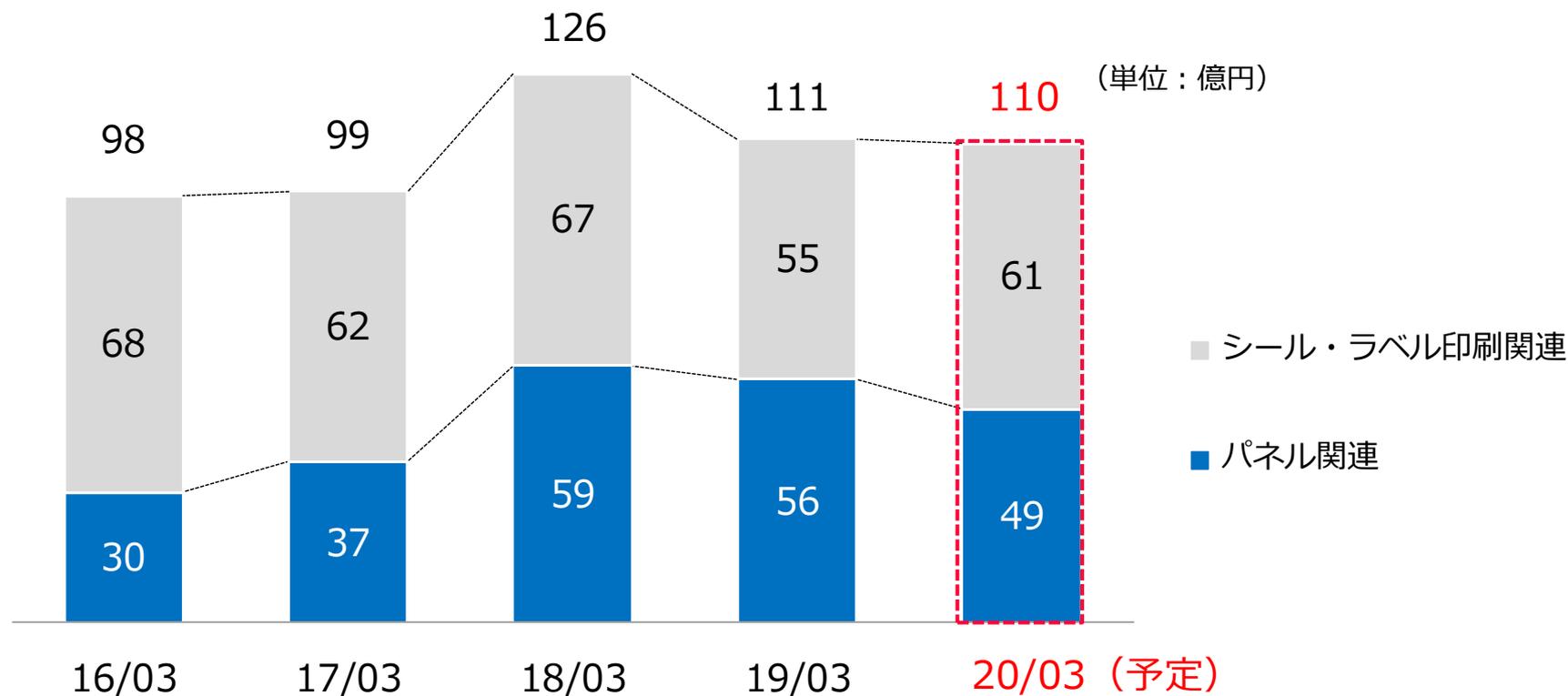
(単位：百万円)

	18/3月期		19/3月期		
	金額	構成比%	金額	前年比%	構成比%
売上高	12,660	100.0	11,196	▲11.6	100.0
AV機器	3,081	24.3	2,067	▲32.9	18.5
OA機器	3,557	28.1	2,163	▲39.2	19.3
その他電気機器関連	3,988	31.5	4,305	7.9	38.5
車載用機器関連	1,263	10.0	1,535	21.5	13.7
その他	769	6.1	1,123	46.0	10.0
売上総利益	2,091	16.5	1,840	▲12.0	16.4
営業利益	187	1.5	▲182	—	▲1.6
経常利益	245	1.9	▲115	—	▲1.0
当期純利益	252	2.0	▲238	—	▲2.1

# 前期決算のトピックス

19/03実績 (減収・減益)	売上高	<ul style="list-style-type: none"><li>● 中国華南地区の環境規制による深圳工場内製品の販売機会喪失が大きく影響し、前期比減収</li><li>● パネル関連製品に関してはスマートフォン、教育機器関連の新規受注案件（OEM）により売上は堅調</li></ul>
	利益	<ul style="list-style-type: none"><li>● 深圳工場の環境規制対応費用及び稼働率の低下により製造原価が増大</li><li>● 同工場において減損損失を計上した結果、当期純損失2億3,800万円と大幅な減益</li></ul>

## シール・ラベル印刷関連製品と パネル関連製品の売上高推移



# セグメント別収益

## 日本

(単位：百万円)

	18/03	19/03
売上高	7,799	8,678
セグメント利益	29	▲5

- 既存取引先の深耕のほか日用品等の新規分野への営業展開により増収
- 販管費の増加により営業損失

## 中国

	18/03	19/03
売上高	4,183	1,769
セグメント利益	156	▲187

- 深圳工場は環境規制の厳格化の影響により、大幅な減収・減益
- 香港現法も上記の影響により減収となったが営業利益を確保

## アセアン

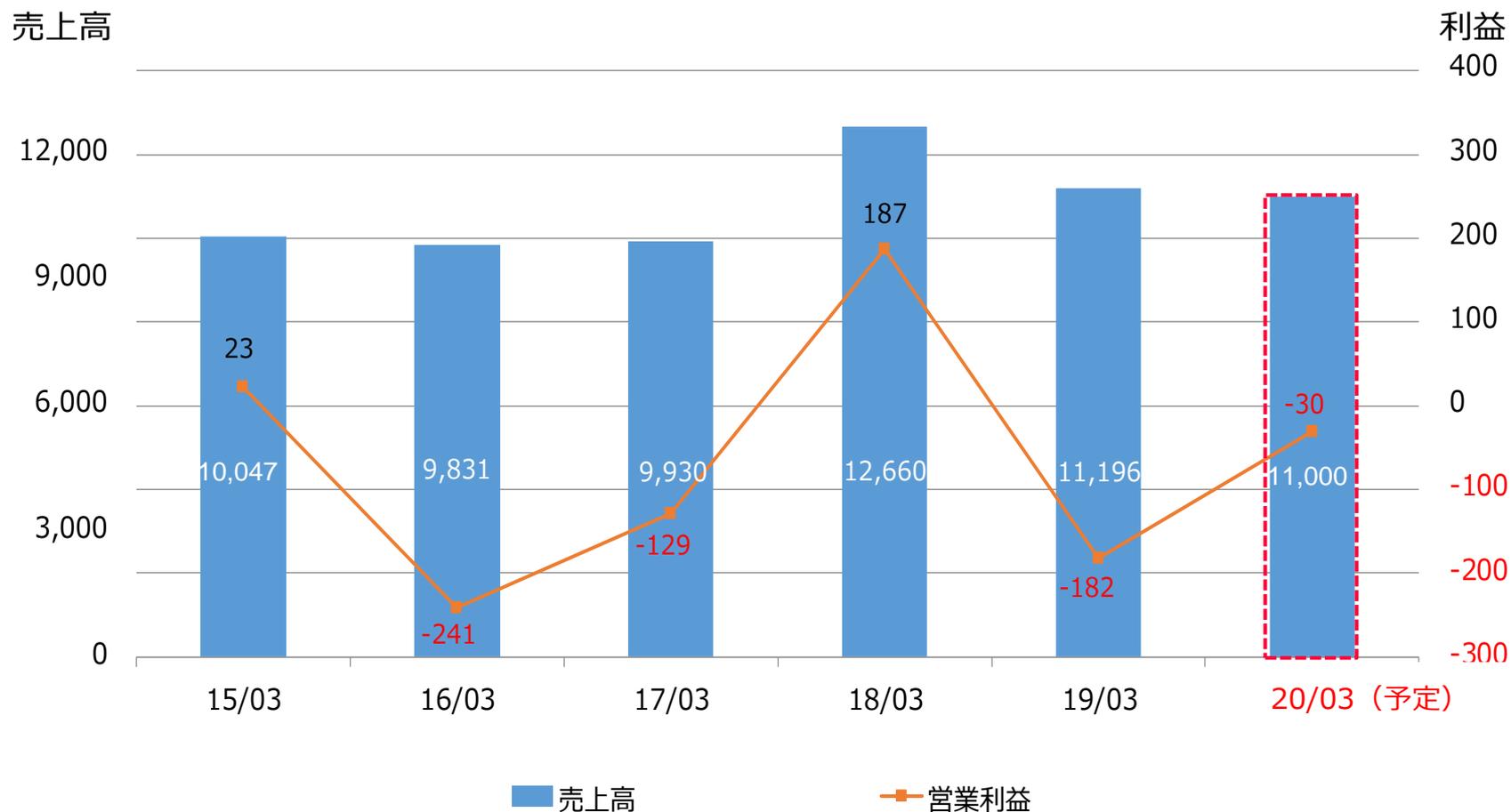
	18/03	19/03
売上高	677	748
セグメント利益	▲7	▲6

- マレーシア現法は業績改善が進み黒字拡大したが、バンコク現法・ベトナム現法の計画未達によりアセアンセグメントは営業損失

※ 上記売上高はセグメント間の内部売上又は振替高を含めておりません

# 業績推移

(単位：百万円)



# 今後の事業展開

## 【成長市場】

- スマートフォン【ハイエンド・モデル】市場⇒高付加価値製品の伸長
- 自動車市場 ⇒今後の成長分野だが、厳しい製品品質基準
- 産業機器並びに医療機器⇒新たな成長分野
- 教育関連機器⇒デジタル化による新たな市場の創出

## 【成熟市場】

- スマートフォン【ローエンド・モデル】市場  
⇒中国メーカー等の供給業者が多すぎるレッド・オーシャン市場
- カメラ市場 ⇒デジカメからスマホへの代替により需要大幅減少
- 米中貿易摩擦による中国市場成長の鈍化

## 【成長市場】

- アセアン地域は、デジタル機器、OA機器関連メーカーの進出によりシール・ラベル需要に期待
- 産業機器並びに医療機器⇒新たな成長分野
- 日用品・ノベルティ

## 【成熟市場】

- 国内家電メーカーの海外生産移管の動きは変わらず、シール・ラベルの国内需要は緩やかだが減少が続いている
- 米中貿易摩擦により、中国市場成長の鈍化

パネル  
関連  
事業

- スマートフォン市場は製品ライフサイクルが短いため、中長期の受注が見込める自動車市場、産業機器、医療機器、および教育機器への営業を強化
- 案件毎に異なる高度な技術・技能が必要とされるため、対応できる人材の育成
- 安定した品質体制の強化

シール・  
ラベル  
関連  
事業

- 国内電気機器関連の縮小をカバーすべく、日用品・ノベルティ等の内需市場への新規参入及び設備投資を実施
- 今後成長が見込まれるアセアン市場での営業力並びに生産体制の強化

# 中期経営計画

2020年3月期～2022年3月期

## ＜中期経営計画見直しの背景＞

当社グループは、業績の回復と将来にわたる持続的な成長・発展を遂げていくために、2019年3月期を初年度とする「中期経営計画」を策定いたしました。中国市場における環境規制の厳格化及び米中貿易摩擦を主な要因とする、急激な経営環境の変化に伴い、2019年3月期の業績予想に対し、売上高、営業利益ともに未達（売上高11,196百万円、営業損失182百万円）となりました。

今回の業績および今後の見込みを踏まえ、改めて市場環境や弊社の現況等を総合的に検討いたしました結果、2020年3月期を初年度とする2022年3月期までの「中期経営計画」を策定し、新たなスタートを切ることといたしました。

## 黒字体質への転換

- 恒常的に利益を計上できる会社にする
- 中国地域の損失の影響を大きく受けたが、他の地域は黒字体質に向けて体制を整えている

## パネル事業の 業界内地位の安定化

- 品質管理の徹底と技術革新の継続により、業界のサプライヤーとして確固たる地位を築く

## シール・ラベル事業の 収益性の改善

- 東京圏のシール・ラベル事業の収益性を改善する
- アセアン地区全体でグループ貢献利益を上げる

# 経営目標達成のために①

パネル事業の  
業界内地位の安定化

- 品質管理の徹底
- 適正見積の実施
- 継続した技術革新への対応と高度な技術力のある企業との連携強化

シール・ラベル事業の  
新たな柱の構築

- 電気機器業界以外への進出
- グループ内受注の拡大により工場稼働率を上げる
- 設備投資による生産性の向上

基幹システムの  
リプレイス

- 旧システムを2020年10月までに刷新し、国内事業所の生産性の向上をはかる
- 計数管理報告の早期化および精緻化を実現し、経営インテリジェンスの向上をはかる

## アセアン地域の 業績の安定

- マレーシア工場のオペレーション高度化のため、新システムを導入
- バンコク、ベトナム拠点の早期黒字化のため、営業活動の強化

## 中国セグメントの 再構築

- 深圳工場の操業停止および販売会社への移行による中国セグメントの早期黒字化

# 数値目標①

## 見直し前

(単位：百万円)

	2019年 3月	2020年 3月	2021年 3月
売上高	11,400	12,000	12,800
営業利益	100	142	240
営業利益率	0.9%	1.2%	1.9%

## 見直し後

(単位：百万円)

	2020年 3月	2021年 3月	2022年 3月
売上高	11,000	11,500	13,000
営業利益	▲30	50	150
営業利益率	▲0.3%	0.4%	1.2%

## セグメント別売上

(単位：百万円)

セグメント別売上	2019年3月期 実績	2020年3月期 見込み	2021年3月期 計画	2022年3月期 計画	対2019年3月期 比較（最終年度）
連結合計	11,196	11,000	11,500	13,000	1,804
日本	9,072	10,072	9,309	10,361	1,289
中国	2,678	1,172	1,742	2,272	▲406
アセアン	757	894	2,570	4,233	3,476
全社・消去	▲1,312	▲1,138	▲2,121	▲3,866	▲2,554

- 2019年3月期の売上高の水準をベースにする
- 深圳は販売会社へ完全移行し着実に売り上げを伸ばす
- アセアンはタイを伸長し、今後の主要収益セグメントへ

## セグメント別営業利益

(単位：百万円)

セグメント別営業利益	2019年3月期 実績	2020年3月期 見込み	2021年3月期 計画	2022年3月期 計画	対2019年3月期 比較（最終年度）
連結合計	▲182	▲30	50	150	332
日本	▲5	131	29	58	63
中国	▲187	▲128	11	20	207
アセアン	▲6	▲33	10	72	78
全社・消去	16	-	-	-	▲16

- 中国事業の再構築
- アセアンを利益セグメントに成長させる

●2020年3月期からの3カ年を、2023年3月期以降安定して営業利益200百万円を計上するための基礎を作る期間として位置付ける

✓2020年3月期は、深圳工場クローズ関連コストを見込むため、営業利益▲30百万円とする

✓2021年3月期は、タイ市場の成長及び中国事業のリストラクチャリング完了で、営業利益50百万円を見込む

✓2022年3月期は、タイ市場の更なる成長とEDP完全稼働による社内オペレーションの生産性向上により、営業利益150百万円を確保する

# 設備投資計画

(単位：百万円)

拠点等	金額	主要項目	2019,3月 実績	2020.3	2021.3	2022.3
連結合計	1,150		214	326	511	313
本社	200	EDP	7	40	150	10
長野	200	生産能力増強	45	47	100	53
川越	50	設備更新他	39	10	20	20
大阪	50	生産能力増強 設備更新	44	20	20	10
中国	-	環境規制対応	23	-	-	-
マレーシア	150	設備更新他	25	17	67	66
タイ	90	生産能力増強	2	82	4	4
R&D	110	新規分野開拓	29	10	50	50
M&A	300	技術提携	-	100	100	100

3カ年計で1,150百万円を投資予定

## 配当について

財政状態、投資計画等を総合的に勘案して、安定配当を基本といたします。

18/03期実績

10.0 円

19/03見込

7.0 円

20/03期予想

7.0 円

本資料に掲載されている三光産業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から三光産業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

## I R お問い合わせ

経営企画室 阿部 雅弘

T E L : 03-3403-8134

e-mail : [m-abe@sankosangyo.co.jp](mailto:m-abe@sankosangyo.co.jp)

EOF